

東濃信金3期ぶり増益

3月期純利益与信関連費が減

東濃信用金庫(多治見市本町)が16日発表した2022年3月期決算は、与信関連費用の減少などで純利益は16億7100万円(前期比13・3%増)と3期ぶりの増益となった。

本業のもうけを示すコア業務利益(投信解約益を除く)は前期比5・8%減の22億6100万円、資金運用収益の減少と本店建て替えに伴う経費の増加で減った。

期末預金残高は、個人、公金が増え1・7%増の1

兆1793億円。期末貸出金残高も個人、一般法人向けが伸び0・6%増の5684億円といずれも過去最高を更新した。

財務の健全性を示す自己資本比率は、0・25%低下したものの16・82%と高水準を維持した。

金融再生法ベースの不良債権比率は0・19%低下し4・8%となった。

23年3月期予想は公表していないが、期末預金残高と期末貸出金残高の目標は公表。ビジネスマッチング

や人材紹介など本業支援に注力し、期末預金残高1兆1950億円、期末貸出金残高5789億円を目指す。

年度内に多治見駅南地区再開発ビル商業棟にコンサルティング業務やセミナーを行う「とうしんウェイプラザ」をオープンするほか、土岐口支店と肥田支店を土岐中央支店の出張所にする。(箕浦田美子)